

朱一だより

京都市立朱雀第一小学校
Tel 841-3201
校長 橋本 真千子
平成29年 3月22日
特 別 号

【平成28年度 後期学校評価アンケート結果報告】

<平成28年度 後期学校評価アンケート及び児童自己評価結果より>

3月初旬に保護者の皆様にご協力いただいた「後期学校評価アンケート」の結果について、ご報告いたします。アンケートは家庭数の401枚をお配りしました。386枚の回答をいただき、96.2%という非常に高い回収率でした。ご協力ありがとうございました。

後期も前期と同じ項目で、保護者の皆様が学校の取組に対してどのように評価しておられるのか、ご家庭での取組についてどのように自己評価されているのか、そして、子どもたちの現状をどのようにとらえられているのかの3つの観点でご記入いただきました。今回は、子どもたちの自己評価と合わせて、全項目の結果といくつかの項目についての考察を報告いたします。

●学校の取組について●	実現度			
	よく 出来て いる	大体 出来て いる	あまり 出来て いない	出来て いない
学校は、子どもたちにわかりやすい授業を行っている。	29.6%	68.4%	1.7%	0.3%
学校は、子どもたちが読書に親しむ取組をしている。	45.7%	51.3%	2.8%	0.3%
学校は、子どもたちがすすんで家庭学習を行う取組をしている。	17.5%	67.1%	14.2%	1.1%
学校は、子どもたちの思いやりの心を育てる取組をしている。	25.6%	70.5%	3.6%	0.3%
学校は、子どもたちがきまりや約束を守るための取組をしている。	22.0%	73.0%	4.7%	0.3%
学校は、子どもたちに将来の夢や希望をもたせる取組をしている。	16.5%	68.3%	14.8%	0.3%
学校は、子どもたちに健康的な生活習慣が身につく取組をしている。	26.7%	68.5%	4.5%	0.3%
学校は、子どもたちが安全に気をつけて生活を送ることができる取組をしている。	32.4%	64.5%	2.8%	0.3%
学校は、子どもたちが不安や悩みを抱えたとき、だれかに相談できるような取組をしている。	12.6%	69.5%	17.1%	0.8%
学校は、ホームページや学校だより、学年だより等により、学校の様子を伝えている。	45.1%	49.3%	5.3%	0.3%
学校は、参観や懇談に多くの方に来ていただけるように工夫している。	24.3%	59.5%	15.6%	0.6%
学校は、整理整頓された学習しやすい環境づくりをしている。	30.2%	65.9%	3.4%	0.6%

●ご家庭の取組について●	実現度			
	よく 出来て いる	大体 出来て いる	あまり 出来て いない	出来て いない
家庭では、子どもが読書に親しむようにしている。	15.6%	41.2%	40.7%	2.5%
家庭では、子どもがすすんで家庭学習を行うようにしている。	12.5%	55.2%	29.0%	3.3%
家庭では、子どもの思いやりの心が育つようにしている。	17.3%	74.3%	8.4%	0.0%
家庭では、子どもがきまりや約束を守るようにしている。	16.4%	71.6%	11.4%	0.6%
家庭では、子どもが夢や希望をもつようにしている。	14.2%	68.7%	16.5%	0.6%
家庭では、子どもに健康的な生活習慣が身につくようにしている。	17.5%	65.5%	16.4%	0.6%
家庭では、子どもが安全に気をつけて生活できるようにしている。	27.6%	69.9%	2.5%	0.0%
家庭では、子どもが不安や悩みを抱えたとき、だれかに相談できるようにしている。	26.3%	68.8%	4.8%	0.0%

●子どもたちの様子について●	実現度			
	よく 出来て いる	大体 出来て いる	あまり 出来て いない	出来て いない
子どもたちは、読書に親しんでいる。	29.1%	33.3%	33.1%	4.5%
子どもたちは、すすんで家庭学習を行っている。	17.4%	46.5%	31.1%	5.0%
子どもたちは、思いやりの心をもって行動している。	25.7%	67.0%	7.3%	0.0%
子どもたちは、きまりや約束を守っている。	19.4%	65.1%	14.9%	0.6%
子どもたちは、将来の夢や希望をもって生活している。	20.4%	59.4%	19.0%	1.1%
子どもたちは、健康的な生活習慣を身につけている。	18.3%	63.4%	16.6%	1.7%
子どもたちは、毎日安全に気をつけて生活を送っている。	23.0%	72.0%	5.0%	0.0%
子どもたちは、不安や悩みを抱えたとき、自分なりの方法で解決している。	13.2%	76.4%	10.1%	0.3%

【子どもたちの自己評価】（上段が低学年，下段が中・高学年）

●低学年児童の自己評価●	実現度			
	よく 出来て いる	大体 出来て いる	あまり 出来て いない	出来て いない
わたしは、よくどくしょをしている。	70.6%	23.1%	5.0%	1.3%
わたしは、すすんでいえでのべんきょうをしている。	56.9%	33.8%	6.9%	2.5%
わたしは、おもいやりのころをもつてこうどうしている。	62.5%	31.3%	3.8%	2.5%
わたしは、きまりややくそくをまもっている。	56.9%	37.5%	4.4%	1.3%
わたしは、しょうらいのゆめやきぼうをもつてせいかつしている。	81.9%	13.8%	3.8%	0.6%
わたしは、けんこうであるためのせいかつのしかたが、みに ついている。	46.5%	44.0%	6.3%	3.1%
わたしは、まいにちあんぜんにきをつけてせいかつしている。	78.0%	19.5%	1.9%	0.6%
わたしは、いやなことやしんばいなことがあつたとき、じぶ んなりのほうほうでかいけつしている。	64.4%	25.6%	8.1%	1.9%

●中・高学年児童の自己評価●	実現度			
	よく 出来て いる	大体 出来て いる	あまり 出来て いない	出来て いない
わたしは、読書に親しんでいる。	47.6%	34.4%	13.2%	4.8%
わたしは、すすんで家庭学習を行っている。	38.6%	41.8%	15.4%	4.2%
わたしは、思いやりの心をもつて行動している。	39.2%	48.9%	8.4%	3.5%
わたしは、きまりや約束を守っている。	31.5%	53.7%	12.2%	2.6%
わたしは、将来の夢や希望をもつて生活している。	60.1%	21.9%	13.2%	4.8%
わたしは、健康的な生活習慣を身につけている。	34.5%	44.8%	17.1%	3.5%
わたしは、毎日安全に気をつけて生活を送っている。	62.8%	26.9%	6.5%	3.9%
わたしは、不安や悩みを抱えたとき、自分なりの方法で解決 している。	49.2%	35.4%	11.6%	3.9%

【考察と今後の手立て】

●保護者アンケートより

前期と比較して肯定的な評価（「よく出来ている・出来ている」の合計）が増えた項目は、学校の取組については12項目中7項目、家庭の取組では8項目中5項目、そして子どもたちの様子については8項目全てでした。学校の取組については、前期に引き続き、授業や読書、保健・安全への取組に高い評価をいただいています。しかし、家庭学習や子どもが相談できる環境づくりなど、低い評価（「あまり出来ていない・出来ていない」）が依然2割弱ある項目もあり、今後の課題も浮き彫りになりました。一方、全項目で前期より評価が上がった子どもたちの様子について見ると、特に「思いやり」と「夢や希望」の項目が5ポイント近く上昇しており、他者とのかかわりや自己肯定感において成長を感じておられる方が多いようです。

今後は、家庭での取組の難しさを感じておられる方が多い「読書への親しみ」を、学校だけの取組に終わらせず家庭・日常生活にもつなげ、広げていけるような工夫がさらに必要であると考えます。また、学校・家庭ともに低い評価が多い家庭学習についても、子どもの意欲が湧き、家庭学習の習慣が身につくよう、家庭と連携をとって取り組んでいきたいと思ひます。

●児童自己評価より

今回は、結果の傾向に差がみられる低学年と中・高学年に分けて結果をお知らせしました。全体としては、学年が上がると肯定的な評価が減っていく傾向にあるのは否めませんが、ほぼすべての項目で、低学年では約9割が、中・高学年でも大体8割以上の児童が肯定的な評価をしていることは、うれしい結果です。自己評価が高かったのは、どちらも「安全」「思いやり」の項目で、自己評価が比較的lowの項目は、低学年が「いやなことや心配なことを自分なりの方法で解決すること」、中・高学年は「健康的な生活習慣」で、そして全学年を通して「家庭学習」という結果となりました。

低学年の子どもたちにとって、マイナスの感情を解消することは、大人が思っている以上に簡単ではないのかもしれない。1割の子が心配事などを解決できないことがあるという現状、そして、学校評価で最も評価が低かった項目が「学校は、子どもたちが不安や悩みを抱えたとき、だれかに相談できるような取組をしている」でした。どの学年の子どもたちにとっても、学校が自分を表現でき、楽しく過ごしやすい場所になるように、また、何かあった時もしっかり話し合い、納得のいく解決ができるようにしていきたいと思ひます。また、学年が上がるにつれて家庭学習や生活習慣、規範意識などが疎かになっていく傾向にあることについても、教師や親が手を離し「自分で」できるようにしていく過程を大切にしつつ、「自分でできるように手立てをうつ」「できているかどうかを注意深く見ておく」ことが重要で、手を離しても心は離さない——いつもそばにいてあげることはできなくても、心は常に寄り添ってられるよう、子どもたちとしっかりコミュニケーションをとり、いつも様子を気にかけていくようにいたします。アンケートへのご協力、ありがとうございました。